

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

境内の灯籠



境内には石灯籠が四対と三基ある。

本殿の前に一対、本殿の横に一対、拝殿の前に一対、稲荷神社に一対、池の畔に一基、手水場の横に一基、戦捷記念碑前に一基。

この内で一番古いのが本殿前の一対。

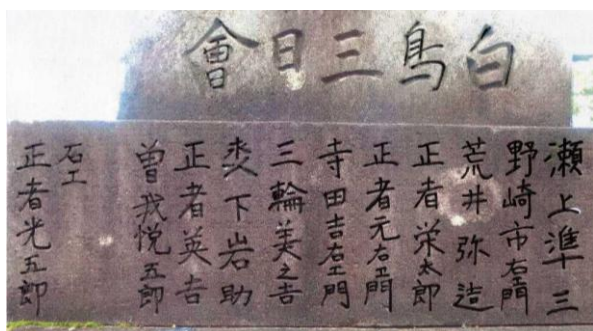
江戸末期の文化十三年（1816）に、白鳥の原酒造の第三代当主・原佐次郎正勝氏のご寄進で建立されている。以来、明治の大火にも負けず、毅然として二百余年の風月に耐えている。これについては、この宮の森第21号（令和元年十二月号）に掲載しているのでご参照ください。

二番目に古いのが拝殿前の西側に立つ灯籠である。灯籠には昭和三年、御大典記念と彫られ、大正時代が終わり、昭和天皇が即位された記念に建立されたもの。寄進者は、白鳥三日会とし、以下の名前が刻まれている。瀬上準三、野崎市右門、荒井弥造、正者栄太郎、

正者元右衛門、寺田吉右衛門、三輪美之吉、森下岩助、正者栄吉、曾我悦五郎、石工・正者光五郎。以上十一名の方々は全員明治生まれで、親戚以外の皆様はご存じないかと思ひます。少し調べてみました。

白鳥三日会とは前記のメンバーによる頼母子講であった。頼母子講で集まったお金で、戦時国債を買った様です。戦時国債とは戦争を始めるに資金が要る為に、宝くじのようなものが発売した。それが当たり、記念に灯籠を寄贈したとメンバーの親戚の方から伺いました。十一人のメンバーのご子孫は、瀬上準三氏は瀬上孝男宮司の父。野崎市右門は野崎左衛門（屋号はサエモ）の分家で屋号は作衛門（サクエモ）でその子供が野崎豊店である。寺田吉右衛門氏はテラキチ商店（寺田吉幸氏の祖父）。森下岩助は↓省一↓昌登氏と続き、屋号は助七。荒井弥造は↓幸一↓庄司氏と続き中日の荒井新聞店。正者英吉は現白鳥踊り保存会の英雄氏の祖父。石工の正者光五郎は正者英吉と兄弟。今は子供達が名古屋で石屋を経営、宮森の野々村かじの末娘すみ子さんがそこに嫁いでいる。又、正者元右衛門（屋号は庄助）も正者光五郎と兄弟である。正者栄太郎は白鳥踊り保存会の幹部として活躍されたが、子孫は白鳥を離れておられる様です。曾我悦五郎は三共家具の源六の兄弟ではないか？源六の子が源一氏。（以上ですが、取材に自信がありませんので間違いがありましたら教えてください）

この白鳥三日会は昭和十五年（1940）にも本殿左右に一対の灯籠を寄進している。昭和十五年は皇紀2600年の節目。皇紀2600年とは日本の初代天皇である、神武天皇が



即位して2600年目の事である。従って今年は2685年となる。2600年には国を挙げて天皇を中心日本中で様々な行事が催された。あと十五年たつと2700年となる。時代が大きく変わった今、如何なるイベントが展開されるか興味深いものがあります。天皇家に関係することで、神社にも深く関わる事です。そんなに遠い先の話ではなく。頭の片隅に置いておいてもよいと思ひます。

稲荷神社例祭

五月三日、稲荷神社の例祭を挙行。二年ぶりに新調されました百五本の真紅の奉納幟旗が薫風にはためく中、山田新自治会長、野田郡上市議会議員、野々村農事組合長、曾我商工会分会長、遠藤観光協会会長、橋場交通安全協会支部長、正者白鳥踊り保存会会長の諸氏が玉櫛を奉奠。白鳥町内各発展会長さん、神社総代含めて、三十四人が出席。護国豊穰、商売繁盛を祈念し、あわせて白鳥春祭りの盛況を念じました。好天の下、瀬上宮司の祝詞が朗々と読み上げられました。白鳥春祭りも一日だけでしたが白鳥駅前公園広場で開催され、過去のお祭りの写真等が展示され、かつては盛大であったことなどが懐かししのばれました。



下草刈りと堆肥搬出

七月十三日 白鳥神社と秋葉神社の境内掃除と宮の森内の下草刈りを行いました。例年通り、真夏の作業で大変でしたが総代衆の頑張り夏姿になりました。何故この暑い時期にやるのかと言う事は宮の森三十二号に書きましたが、夏草は梅雨時の水分を得て、猛烈



に繁茂します。すると周辺にある天然記念物の櫟や杉の育ちが悪くなると言うのが一つの理

由です。今一つは夏土用の時に草刈、土いじりをすることを忌み嫌ってききました。この時期、土を司る神が土中に居て、いじると怒り不吉なことが起こると信じられてきました。今年の夏土用は七月の十九日から八月の六日までです。

七月の五日、堆肥化した落ち葉を搬出しました。宮掃除の時に集められる落ち葉は、森の中の数か所に投棄して、一部は堆肥化しておりました。数年前には大きな箱を作り、小糠や窒素などを混ぜて、堆肥化を試みてきました。その中に杉の落ち葉などが混じり、純粋な堆肥とはなりません。量も多くなり、景観も悪くなってきました。こんな時、瀬上建設の農業部門である(有)FK農産の瀬上恒夫氏から引き取っても良いという話を頂き、パイローダーと2tタンプトラックで一日をかけて搬出し、跡地はスッキリときれいになりました。田んぼの元肥として使ってみると言う事です。美味しいお米の出来ることを祈念いたします。



初宮参り

四月十三日 二名の赤ちゃんが初宮詣をされました。無事の御出産、誕生を神に報告し、この先の健やかな成長を祈願いたしました。

白鳥町白鳥 曾我賢太・真理 長男 伊吹 君
白鳥町越佐 林健太郎・楓 次女 柊那 ちゃん
前途の幸せをお祈りいたします。



みんなの俳句・投稿・その参

投函箱には遠くから来られた人が投函されております。秋田県からは、句の中から拝察すると、旅の途中に寄られた様です。又、ベトナムからの女性は、俳句ではなく、自分を紹介しております。小さなひらがな文字で書かれております。文面はやや不正確ですが、白鳥へ働きに来ておられる方ではないかと推察します。他国に来て、不安と淋しさが行間から伝わってきます。



仕事と共に、日本の文化も学ばれますようお願いいたします。俳句でなくても、様々なものを投稿下さると神社の輪が広がるような気も致します。皆さんどんどん投函してください。

「宮参り 今日も元氣な 池の鯉」・・・田中ヒサ子
「猛暑夏 地震台風 神祈る」・・・ひだまりジジ
「空蟬を こわさぬように 手のひらに」・・・田中幸子
「宮林 誰かの声や 淋しすぎ」・・・ひだまり会員
「久下田から 今は白鳥 いつ帰る」・藤原勇次郎直彦
この方の住所は秋田県横手市十文字町鍋倉と記して

ありました。久下田(くげた)と言うのは、昔、栃木県芳賀郡に属していたところである。ベトナム女性の文章も紹介します。

「こんにちは 私はグエン ホーン フックともうします 今年20才になりました ベトナムからです はじめて日本へ行きます こちらこそよろしく おねがいいたします」(原文のまま)

「若き娘(こ)が 異国の地にて 初詣」・・・寅次郎

令和七年八月からの行事予定

- 8/1・・・宮の森38号発行
- 8/3・・・宮掃除
- 8/16・・・境内盆踊り
- 8/17・・・拝殿踊り
- 8/18・・・例祭関係者合同会議、祭りポスター張り
- 9/1・・・例祭大神楽稽古始め
- 9/7・・・宮掃除、幟旗建て
- 9/18・・・大神楽稽古納め
- 9/19・・・例祭準備
- 9/20・・・秋葉神社例祭・白鳥神社例祭試楽
- 9/21・・・白鳥神社例祭本楽
- 9/22・・・後片付け、反省会。753ポスター張り
- 10/19・・・宮掃除
- 11/3・・・初宮・七五三 神事。総代会
- 11/19・・・神送り
- 11/23・・・新嘗祭・左義長神事
- 12/21・・・新年準備作業
- 12/31・・・正月初詣準備・徹夜態勢に入る

御寄進・ご奉仕

一、幕・提灯収納箱・・・・・・・・足立好教様
一、本殿東花壇造成花植え・・・・・・・・足立好教様
一、宮の森内堆肥搬出・・・・・・・・瀬上恒夫様
手伝い・野々村薫・日置範寛・古家孝一
心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(82)4387・瀬上宮司まで

(文責・瀬木)